《史料紹介》

沼隈町のパラグァイ集団移住

安藤福平

広島県沼隈郡沼隈町のパラグァイへの集団移住は、戦後の広島県における海外移住史上、注目すべき事例である。筆者は、広島県が進めている「広島県移住史」編纂事業の一環として、沼隈町役場を訪れ、同町役場に保存されている戦後の海外移住関係文書を閲覧する機会を得た。その詳細な検討・分析・評価等は「広島県移住史」によって果たされると思われるが、ここではとりあえず沼隈町のパラグァイ集団移住の概要を知ることのできる史料を紹介し、今後の研究の資としたい。

沼隈町は一九五五年（昭和三〇）三月三一日、山南・千年両村が合併して誕生した。初代町長には神原秀夫が就任し、同町長のもとで南米パラグァイへの集団移住が推進された。この移住計画は史料①にあるように、とりあえず、パラグァイ国フラム地区の一万四〇〇〇町歩の入植地に三〇〇〜四〇〇家族を送出するものであったが、将来的にはさらに多数の人を送出することによって、第二の沼隈町を現地に建設する構想も含まれていた。一九五六年四〜五月には、町長自ら現地を視察し、史料②にみるごとく八月には町単位の海外協会も設立された。

「町ぐるみ」の集団移住というめずらしいケースであり、また、町長が海外移住にことのほか熱意を示し、壮大な将来構想のもとにパラグァイ移住を推進していたので、新聞や週刊誌で企画の段階から大々的に紹介された（その一例が史料③）。このため、全国的にも大きな反響をよび、海外移住に関心をもつ人たちからの申し込みや問合せが沼隈町に殺到した。史料④・⑤の書翰はその一例であるが、沼隈町役場では、これらの書翰を「移住希望者来翰綴」としてまとめて保存している。その第一分冊は一九五六年八月末から九月上旬にかけての来翰一二五通が綴られている。同年中の来翰綴は計六冊（ただし一冊欠）、一九五七年一月以降分三冊、計九冊分にもおよぶ書翰が町役場に寄せられたのである。

集団移住の第一陣は、一九五六年一〇月七日、沼隈町で盛大な

壮行式を挙行して郷里を出発した（史料⑥）。以後一九五七年一二月までに八回にわたって集団移住が行われ、一九五八年二月現在、移住者は五九家族三四一人に達した。このうち沼隈町関係は二三家族一二九人であった（史料⑦）。移住当初の状況については史料⑧の河野広中（第一陣）の便りにその一端をうかがうことができる。

ところが、一九五八年七月、営農資金一戸あたり二〇万円以上の融資を要望する移住者連名の嘆願書が自民・社会両党県連等に届き、これが報道機関によって大々的に報道され、社会的に大きな反響を呼ぶことになった（史料⑨・史料⑩）。これ対して県は、沼隈町移住者に対し県知事名のメッセージを出し（史料⑪）、係員を現地に派遣し調査にあたるとともに、関係各方面から情報収集につとめた。その結果まとめられたのが、史料⑫の各地方事務所長・各市町村長にあてた通知文で、これは沼隈町移住団に関し、「各種の情報が報道され、少なからぬ関心と憂慮とをもたらしたものであるが、その結果、現在移住振興の上に好ましからぬ影響を与えつつあるやの状況に鑑み、この際判明している真相をとりあえずお知らせするから指導啓蒙上遺憾のないようお願い」したものである。そして、翌年二月には沼隈移住団の強化育成対策が立案され、外務省移住局長あての要望がなされた。史料⑬はその起案文書である。その後の経過の紹介はここでは割愛するが、一九六〇年五月、移住団のリーダーから現地の情報がもたらされた。史料⑭がそれで、開拓当初の困難をいちおう克服して、現地に定着することができた人々の生活ぶりをうかがうことができる。

史料①　パラグァイ移住募集のチラシ〔沼隈町役場蔵「昭和三十一年度斡旋所内文書」〕

〃フラム募集始まる

一万四千町歩に四百家族〃

移住振興会社で購入した〔ママ〕パラグアイ国フラム植民地への入植第一陣十家族は目下募集中であるが七月二日横浜出帆の〃ぶらじる丸〃で先発送出された。

移住資格、条件は、自営開拓農にして満六〇才未満の夫婦を中心として満十二才以上の子供又は同伴者一人以上を加えた労働力豊なること。携行資金として土地代を差引き最低十万円が必要である。移住会社は幹線、道路の建設、橋梁の加設、地区割など管理業務に従事する。学校医療施設など公共施設は年度内に設置する予定、現地引受世話人は日芭拓植組合である土地は移住会社が分譲する。支払は一時払と半額前払がある。後者の場合残額は二年据置三ケ年均等払となる一

万四千町歩のフラム移住地は三百—四百家族が入植可能の見込みで今後毎月一定数の人員が波状的に送出される予定である。

分譲面積は一家族につき一区画（二十五町歩）ただし希望により二区画分譲もできる。価格は一区画につき分割払の場合十四万四千円一時払で十三万三千円である。

吾が沼隈町も此のフラムが最も有利な開発地と考へるので多数の応募者の出る事を希望して居る。パラグアイはブラジルと異なり集団移住が可能であるから、かりに、五千人程吾が町から行くとすれば全ての文化施設が出来る。

八月十日に政府締切の期日に入れ度いと思ふから御希望の方は単身者にても可能であるから移住係迄申し込まれ度い

沼隈町長　神　原　秀　夫

史料②　沼隈町海外協会の設立〔「沼隈町広報」第一四号、一九五六年一〇月一日発行（『広報ぬまくま』縮刷版）〕

海外協会設立

殺到する応募者

外務省もおどろく

わが沼隈町では八月上旬南米パラグアイ国のフラム植民地に町の人々を送るため、県及外務省、海外協連と本格的打合を行いつゝ、あつたが、その実現の見通しが濃くなつたので、その募集、選考、選出実務等にあたるため、海外協会を設立、該事業の推進機関として発足することになり、その発会式を八月十六日金明会舘で挙行し左の役員を任命した

一、会長　神原　秀夫

一、常務理事　遠部　義良

曾我　重一

〔理事一三名・幹事四名・事務局書記三名　氏名略〕

而して新庁舎内に移住相談所を設け移住のあっせんに募集のフタをあけて見ると、北は北海道から南は鹿児島会社員あり農夫あり、教員あり、工員あり、六十才以上から中学三年生の青年に至るまで、続々と応募者刹倒〔ママ〕、相談室には連日七、八名がつめかけ、町長はじめ係員はうれしい悲鳴をあげている始末

まるで県外事課の出先機関のようで、而も「この様に世間から注目されて来たことは誠によろこばしい事でやはり町長クラスの方が熱をいれられた賜だこの意味において先鞭をつけられた沼隈町の場合は意義が非常に大きいと考えている」と外務省移住局の原第三課長の言もうべなるかなである。

沼隈町のパラグァイ集団移住（安藤）

史料③「町ぐるみで南米移民」――『サンデー毎日』の報道〔『サンデー毎日』昭和三一年九月九日号〕

〝町ぐるみ〟で南米移民

花嫁船も仕立てて沼隈町（広島）

面積三〇・四五平方キロ、人口一万一千余の広島県沼隈郡沼隈町が挙げて南米パラグァイへ移住するというニュースは九千万の人口であえいでいるいまの日本には、涼しさをわれわれに与えてくれた。外務省でもこの町ぐるみを大量移民のテストケースとして注目している。

貧乏町を救う道

このどえらい夢をいだき、これを実行に移したのは広島県下の若い町長さんである。神原秀夫さんといい、三十九才。立命大の出身である。そしてこの夢のヒントは、この町長が日華事変当時中国大陸を転戦して、つくづく日本の狭さを痛感したにあるという。

終戦後、町長は資産家の跡取りとして神原汽船を運営したが、昨年の町長選で父親の願いを入れて立候補、めでたく当選した。

この沼隈町は田が二百五十二町歩、畑が二百六十五町歩余あわせて五百十九町歩農家の平均耕作面積は二反というさびしさである。漁業に頼るのだが、この町の漁獲高は戦前八千貫、時価にして二百四十万円が現在では二千貫、百万円という減り方である。これは船の増加による乱獲にあるのだが、結局漁師の手取りは年二、三万円という心細さである。それに戦前その名を売った畳表も最近は九州、四国ものにくわれてしまって、不振という実情である。

これが、この町長の頭に海外移民を再び描かせた大きな原因なのである。そこで早速、昨年の六月町に海外移住協会をつくり、町議会の承認も得て、本年四月から六月まで外務省の移住監督助手という名目で日本移民団とともに「あふりか丸」でブラジル、パラグァイ、北米を見て回った。この時、町の老人たちは〝何と変わった町長さんじゃ〟と不思議がった。

その視察の結果は、ブラジルは移住家族の「三親等の呼寄せ移民」がないと移住できず、アマゾン地域は〝緑の魔境〟というところよりも人口希薄、マラリア、コレラ、赤痢の地。これらよりは肥料は二十年間も不要だし、移民の条件も寛大なパラグァイのフラム地区こそ最適と、この町長さんは白羽の矢を立てた。

この地区に、「沼隈町」として、入植するために全面積一

万四千町歩のうちの一千町歩が買収契約として、この町と日本海外移住振興会社との間に取交わされた。

地代の百八万円は町長はじめ有志が負担した。そして第一陣移民の募集が始まった。そして三十一名五世帯がきまったので、いままでの海外移民で例をみなかった「共同体組織」としての「フラム地区備後開拓組合」なるものが生れた。

希望はらむ船出

団長は町長の級友で京都市霊源院の住職法務技官森大光師。年は四十才。副団長は町長の従兄弟にあたる小林年晴氏（三十三才）があたり、みずから進んでかの地に骨を埋めることを誓った。そしてその移民団の中には近畿大一、大阪外語一、拓大一、立命大一、阪大一という五名の若い大学卒業者が加わって、日本の文化をもパラグァイに植えつけると大きな希望に燃えている。

一世帯二十五町歩、この土地買収費は前に述べたように、組合が肩代りしているので入植後一、二年で現金収入がはいれば「誠意をもって」返却すればよいことになっており、移住者は身回り品を当座の小遣いだけもってゆけばよいのもこの組合の新しい試みである。

これまでは十万円以上の現金がなくてはゆけなかった海外移民に新しいケースを作ったものであった。

もっともその代りに移住協会としてはこのほかに積立金百万円と携帯資金百万円を用意し、また第一陣が自活できるように紡織機械、製粉機、製米機、製メン機ざっと百万円分も持ってゆくことになっている。

ところでその第一陣三十一名は、九月の末日、この町の岩船港から神原汽船の船に乗り、地元中学生のブラスバンド、町民の紙テープの花を受けながら勇んで出航するというが、これは昔の「棄民」というさびしい印象をこの人々の心の隅に残させないためだという。

それから、一行は神戸に向い、十月十五日にオランダ船チチャレンカ号＝一万一千トン＝で南米へ向う予定である。

こうしてフラム地区へはいった入植者は、まずテントを張り、原始林に四方から火を放って、これを焼き、そのあとに綿、ブドー、トウモロコシ等々を植え、宿舎をつくって第二陣・第三陣を迎えることになる。

南米の「沼隈町」へ

第二陣は百名で、これは目下募集中、すでにこの二十六日現在で四十六名の契約があるが、東京、長野からの申込みもあって問合せの手紙は毎日数十通におよんでいる。第二陣は、

沼隈町のパラグァイ集団移住（安藤）

月末まで締切り、十一月十五日神戸出帆のルイス号で現地へ向うが、来年は一千名を送り、沼隈町から少くも五千名は送って、町には必要な人員を老人だけにする。こうして南米に「第二の沼隈町」をつくろうと張切っている。

ところでパラグァイは、南アメリカの中南部にあり、面積四十五万七千平方キロ日本の三十六万平方キロよりやや大きいところに広島県なみの百四十万四千人しか住んでいない。地味は肥え、悪質な風土病といったものはなく、・・・・・・日本人にはまさに活躍の土地である。

この地区には、すでに日本人四十三家族、ドイツ人十家族、白系露人三千五百人、スペイン人二十二家族がはいっており、仲よく開墾に従事しているという。

そしてさきに入植した日本人の便りでは三十五町歩の土地のうち、半年に六町歩を開き、綿、ウズラ豆、小豆、陸稲を取り入れているというから収穫も早い。

沼隈町ではこうした移民団に若い青年たちを送り出すだけでなく、一年後には、うれしい花嫁船をしたてて、向うで新家庭をもたせ、根をおろさせることにもしている。

町長の抱負はまだまだ大きく、同町に国立または県立の移住学校つまり移住訓練所をつくる計画も立てている。

こうした「町ぐるみ移民」の構想は、それが大きいだけに新築した町役場には移住課ができ、町長室の机の前には大きな南米の地図も張られている。

町長の夢は続く

そして町のあちこちでは、海を渡る荷造りのうれしい音も聞えてくるし、値をたたかれる田地や山林の売買も、町が全責任をもって、これにあたっているだけに何もかも心残りがないという。

神原町長に抱負を聞いてみた。

『シナ大陸にあった時、若い青年は、すべからく、せまい日本を離れて海外雄飛すべきだと思った。ネコのひたいほどの農地や少い漁獲を追ってもそれは少きを分かつのみで決して将来性はない。パラグァイは人口希薄、健康な土地で私が自分の目でみて太コ判を押した。日本人は優秀であるし、その勤勉性も定評のあるところ必ず新しい天地が開けると信じている。ブラジルの一世が明治時代の入植の苦心談をいうが、あれはもう古い。こんなブラジルではイタリア移民は麻袋一つを肩に気軽に入植している。日本人がピアノまでもってゆくのをみたが情けない。まず必要なものだけ。あとは現地で買えばいいことだ。要するに悲壮感にとらわれず、隣りにゆ

くような気持でゆくことだ。移民するからといって「沼隈町」を放ったらかしにするのではない。新農山漁村建設に向って進むのです。「第二の沼隈町」時々あちらとこちらの沼隈町を往復するのもオツなものじゃないですか」

（本社福山通信部　花岡泰隆）

史料④　海外移住希望者の書簡（一）〔沼隈町役場蔵、沼隈町役場移住課「移住希望者来翰綴（其の一）」昭和三十一年八月十五日より〕

前略、『町ぐるみ移民』のサンデー毎日の記事を見て希望を新にしました、と言ふ六男坊の小生は昭和十八年に義勇軍として渡満し希望達せずして終戦、あらゆる困苦に堪へて、二十一年十月引揚ましたが、五反百姓の生家では、どうにもならず、心密に、海外移民を夢見て暮して居ましたが単身移民はならず表記会社で勤務して居りますが年頃として結婚話も身が入らず、海外雄飛の希望はすてえず今日におよびました、

小生は本籍は広島県で『移民県広島沼隈町の名に恥じない様頑張る覚悟で応募します、第二陣は月末とあり締切日はすぎて居りますが、できれば第二陣に参加して、満州大陸での

沼隈町のパラグァイ集団移住（安藤）

希望を新に、頑張りたいと思ひます

別に申込書があると思ひますが履歴書と返信用封筒を同封して、おきますから、誠に御手数ながら仔細を御知らせ下さい、場合によってはそちらに伺ひたいと思ひます、

先づは取敢ず用件のみ、

九月一日　　〔氏名略〕

移住課御中

史料⑤　海外移住希望者の書簡（二）〔同前〕

突然お手紙を書きましたことをお許し下さい

職場の帰りに街で買求めましたサンデー毎日を読んで行く時、〝町ぐるみで南米移民〟この文字が私を取らえて気の早るまゝにペンを取りました。

他県からの申込みがありますとのこと是非私も申込ませて下さい。

私も我が小国には住み所を定めがたく海外移民には多大の望みを掛けていましたが。水飲み百姓と云われる貧乏の三男坊として生れましたので新制中学が終ると直ぐ裸一貫で東京に出て一旗上げようと大志を持って上京しましたが、山や畠

で働いた私には東京の仕事は手に付かず又多数の人に押されて歩く毎日がやりきれなくなって天地大自然の中に身も心も打込んで行けるような……それが地球の一部であっても鍬で一握り打ち返されて行く征服感にほんとうの嬉びを思うのであります

移民が出来ればと思えながらも金が無い故に行けなかった。ところが貴所のお話しでは移住者は身回り品と当座の小遣いだけとのこと、急いでお手紙を上げます訳であります　是非お取りはからい下さる様にお願えします

最後に本籍地を書いておきます

〔本籍略、差出者の本籍は新潟県、三男、昭和一一年生〕

八〔九〕月一日

〔氏名略〕

上様

史料⑥　第一陣の出発〔前掲「沼隈町広報」第一五号、一九五六年一一月一五日発行〕

希望に燃えて

第一陣三十六名故里を出発

十月七日午前十時、南米パラグァイ国フラム地区に入植する。第一陣三十六名の県主催の壮行式が、金明会舘で、来賓、近親者等二百余名参集、盛大に行われた。

知事から「県移民史上に特筆すべき壮挙をたゝえ、あくまで初志を貫き、後に続く者の励ましとなつてほしい」と原田県外事課長の代読する壮行の言葉に、記念品として、桂〔柱〕時計と医薬書が家庭に贈られた。

つづいて県関係者や、この壮挙の花形神原町長の各新聞社、ラジオ、テレビ班等カメラマン二十数名のフラッシュを浴びながらの祝辞、各方面からの祝電披露のあと、森団長が代表して「沼隈町はじめ県民の、精神的援助を信じ、一人の脱落者も、出さすにあらゆる困難に耐え、初志の目的達成に精進する」と力強く答え、式を終えた。

このあと記念撮影、町の心づくしの折詰と祝酒に、名残りつきぬ懇談に、ひとときを過し、正午会場をあとに、鷹取中学生のブラスバンドが奏でる「螢の光」に送られ、小旗打ちふる沿道の町民に応えながら、貸切バスで岩舟に、而して桟橋で待つあき丸に乗船、

沿道及桟橋は、小学生、中学生をはじめ、消防団、青年団、婦人会員町民等数千人、ぎつしりと埋めつくされ、人と旗の

波、午后一時半打ち上げる花火と五色のテープの乱れ飛ぶ中を船は螢の光に送られながら、しづ〳〵と桟橋をはなれた

なおこの時空から祝福するため、毎日社の双葉パイパー暁星号は午后一時二十分、沼隈町上空に飛来し、白い胴体を秋の陽に輝かせながら、旋回、本田毎日新聞社長からの神原町長へのメッセージと祝賀ビラ一万枚を投下、低空で壮途を祝し、山南小学校に至り、上空から「祝壮途」の学童による人文字に応え、旋回して、あき丸の船出と共に、彼方の空へ消えて行った。

大阪毎日新聞社

祝　詞

きょうここに

沼隈町民六家族三十六名が海外移民の第一陣として遙か南米パラグァイへ船出する日にあたり、その壮途をお祝いするとともに沼隈町、大きくは日本の海外発展の礎石となれるようお祈りいたし神原町長の遠大な御計画に対し敬意を表するものであります。

昭和三十一年十月七日

毎日新聞社

沼隈町長　神原秀夫殿

史料⑦　都市別フラム地区移住者数調〔広島県立文書館蔵広島県行政文書、外事課「フラム移住関係綴」昭和32年2月～34年3月〕

パラグァイ国フラム移住者郡市別数調（33・2・10調）

県外			市別			郡別		
県名	家族	員数	市名	家族	員数	郡名	家族	員数
京都		四	広島	三	一四	安芸	一	四
大阪		一	呉	二	一〇	安佐		三
大分	一	六	因島		一	山県	三	二四
			松永	三	一七	高田	四	二六
			福山	五	二七	賀茂	二	一五
			三次	二	一〇	豊田	一	八
			府中	一	四	御調	二	八
			大竹		一	世羅		一
						沼隈	二五	一四〇
						深安	二	一〇
						芦品	二	七
小計	一	一一	小計	一六	八四	小計	四二	二四六
合計（内純沼隈町関係 二三家族 一二九名）五九家族 三四一名								

沼隈町のパラグァイ集団移住（安藤）

史料⑧　入植三か月後の現地便り〔沼隈町役場蔵、沼隈町役場移住課「パラグァイ国フラム現地便り」〕

沼隈町出身者　河野廣中

今日は雨降りて一筆啓上いたします。

皆様も御健在にて沼隈町発展の為御苦心の事と存じます、町も日進月歩の激しい今日相当に見変った事と存じます、私共も入植以来満三ケ月開拓の基礎造りの為毎日余念がありません、入植当時は何故こんな所へ来させたらう、町長を始め役場の移住関係者がにくくてならなかった、エンカルナシオンの駅に着いたとたん皆んな淋しく自然と顔を見合せて互いに溜息をつく始末でした、それから日数がたつに従ひ愈々現地に入り先輩入植者の入植当時から現在に至る状態と将来への見透しを目の当りに見、自分等の現実と将来あることを検討して見ると段々と光明が見出され、町長始め皆様の厚意に感謝せざるを得ない見透しが付く様です、今では来てよかったと思ふって居ります、私も今頃は仕事をすることが楽しくなりました、パラグァイは実直に勤労意欲の旺盛な者が来る所だ、日本でもそうだが特にパラグァイはそうだ、日本では真面目なものが損をする事が多いようです、所がこち等は概して真面目に働けばよい所です

〔中略〕

不省私は備後開拓組合の農業指導者の一人として微力は尽してゐますが何分こちらの農業は単純ですから初心者でも出来ます問題は栽培技術よりか経営技術に腐心する状態です組合の指導方針は永年作物としては油桐とマテ茶に果樹の一部普通作物は米、小麦、マンジヨカ、玉蜀黍、落花生、綿等を適当に適地適作主義で経営することです

耕地は一面の平野かと思っていましたが可成の起伏状態になっています、山焼が終ったのでこれから耕地に野菜の播付五月には小麦の播付七、八月には油桐、マンジヨカ、落花生、玉蜀黍等を播付けます

第一回現金収入は十一月小麦の収穫で一町歩当り日本金で三、四万円位の収入かと思ひます

こちらも初めは淋しかったが引続きどん〳〵と入植して来ますので今では淋しくもなく日本より住みよいところと成りました、もうすぐ学校や色々の設備も出来ます、皆んな張切って開拓に努力しています、近い将来立派な備後村となることでせう。日本からの便りによれば当地入植者中より逃亡者が出たとの様子、本当です他県人の〔氏名略〕といふ兄弟二人が出国し警察につかまりて留置場に入れられて今では反省

してチャベスの或る日本人に引受けられ更生の道をはかっています、それ等も国を出る時は覚悟はしていたのでせうが途中立派な町やそして先輩諸氏の立派な生活をそのまま見たのでせう、立派な町立派な先輩の生活の裏には人知れない苦労があったことを忘れてはならない、こんなことを忘れて猿が出る山に来れば、いやになって町に出たがるのは若い人の、人間の本能でせう、最初国を出る覚悟を慣徹〔ママ〕して初めて成功することでせう。こんな弱い気の人が多い中にはいます、〔氏名略〕兄弟の逃亡は決してフラムの状況が悪いので出たのではないので、こちらのことは心配なく、御指導下さい。

失礼なこと申上げますが日本で借金が増える様な人は必ず南米に来るべしです、何も心配することはありません、最初来る時は懐かしい国を出る時は色々の事を考へて出られるものではありませ〔ママ〕が、一たん思い切って来ればかへてこちらがよく成ります、本当に来てよかったと思ふて居ります、馬屋原辰美さんの思ひ切りには感心しました、これが本当の思ひ切りでせう、沼隈町の人が一人でも早やく来られることを心からお待ちしています、土地は無限です、失対事業に従事される数々の人から様子を知らせて呉れと頼れていましたが何分横着なので役場から以上申上げた事情の一部でも知らせて上げて下さい、そして皆様によろしく御伝へ下さい

役場の皆様を始め町民の皆様御元気で今日これにて　草々

史料⑨　フラム地区移住者の歎願書〔前掲「フラム移住関係綴」〕

㊢〔後筆〕自民党県連に届いた歎願書写

歎願書

芭国イタプ県フラム地区、沼隈町一同

（原文のまま）

日夜吾々移住者の為に御配慮頂いて居りますことを深謝致します。

就きましては今日の窮状をお伝へして今一層の御援助を願い度く嘆願致します。

当パラグアイ国に於ける沼隈町第一陣は一昨昭和三十一年十月故国を出発同年十二月末現地に到着爾来回を重ね今日までに第八陣を迎え総人員三百人を数えるに至りました。

当地への入植は七、八月を最適期としますが十二月、一月に主力が入植し然も入植者の殆どが、営農資金の最低と言った状況で生産活動に移る七、八月には手持資金皆無の状況でした。加ふるに入植予定地までの道路と称するべきものは一切なく言語に絶する困苦の上いささかの収入でも得ようと労力的に

沼隈町のパラグァイ集団移住（安藤）

開墾初年度の麦作は不可能と言われる常識を破って心を併せて原始林にいどみ六月には一戸平均一町歩の小麦の蒔付に成功したのですが未曾有の悪天候に依り収穫皆無猶八月には各戸当り三町歩のトウモロコシ（ブランコマイス）の播種を完了してホット一息したものも束の間収穫期になってパラグアイ国の経済上の問題から一粒の換金も出来得ないのみか第二期作としての各戸五町歩のトウモロコシ（ベヱネヅヱラ種）も植付時期にはパラグアイ政府当局としても瓩当り三、五Ġと称し乍ら収穫期今日になって二Ġ或は二、五Ġの線を出ざる由です。伐採資金として各戸平均五〇〇〇Ġを国立銀行から借入れて居るのですが瓩当り二、五Ġでは運賃に瓩当り一Ġを要しますので、之が返済も危ぶまれて居る現況です。

以上の如く入植当初からの悪条件が累積して遂に僅かな家財を売って喰継がざるを得ない最悪の状態に追い込まれたのです。

我々故国出発に当り広島県知事より戸別に渡航記念として贈られた柱時計さえも殆ど全部の人が処分した現状です自己の又家族の生命を維持する為の止むを得ざる処置とは言い乍ら渡航に際して贈る者贈られるもの共々に終生の記念として吾家の柱で故国の音を響かしてくれる筈だった此の時計が或はパラグアイ人の家にロシヤ人の店舗に吊られて居るのを見る時は断腸の涙を禁し得ません。

又毎日次の様な会話が路傍で又井戸端で取交されて居ります。

「毎日マイスとマンジヨカばかりでは腹具合が悪くて困るよ」

「マイスも硬くなって喰へぬ様になったね」

「マンジヨカばかりじゃ直ぐ腹がへってね」

「この間家じゃお父さんの最後のシャツを売ってしまいお父さんの着るものは仕事着しかないよ」

「私も内地の外出着を今度売ろうと思って居りますが何幾位で売れるでせうか」

「あんたの内にはまだ柱時計があるからいいね」

以上のような悲惨な家庭が殆んどでいささかの品物を残しているものは反って恥かしい位の憾です。

このままで推移すれば栄養失調患者も出る事を予測される現状です。又当地入植と同時に子弟教育を考えて忙しい中を父兄の労力奉仕に依って小学校の建築に着手柱を建て屋根（手割の板）を張るまではやりましたが当パラグアイ国からの派遣教員は食費、宿舎及給料の不足額を被派遣地で補給しなければならず、又その補給がなくてはこんな山の中へ来るもの

もないので食に給窮〔ママ〕しながらも今日まで維持して来たのですが校舎の壁にも座板、窓、机、椅子等金の懸るものは一切手の出ないのみならず夏季四十五度、冬季零度と言う寒暑の中での教育の成果が上がらずこの際国家的になんとか手を打って頂かなければ早晩学校閉鎖も止むを得ない状況です。

又医療については〔中略〕同医師も来る六月には帰国される事になり再び病気に対する不安が増加したことは疑いをはさむ余地がなくそれやこれや考える時我々移住者の前途は誠に暗澹たるものです。

以上当地の窮状を並べましたが之が当面の打解策として日本政府からの緊急且可成りの長期の融資を受けたいと願うものであります。

噂に依れば昨年の八月頃移民対策として二十万円の生活資金融資の法案が議会を通過したとのことですがまだ政府出先機関からは具体的な話も伺って居りませんが事実とするならば之を可及的速やかに吾々の上に具現されます様又万一単なる噂のみのものであるならば是非共最底〔ママ〕一戸当り二十万円以上の融資実現方を尽力下さい。この必要時は今日より大なるはないのです。衷情を御明察の上全幅の御協伏〔ママ〕してお願い申し上げます。

蛇足ですが吾々は目下ラパス農業協同組合を結成今後共に鋭意営農に力を致し御尽力頂く融資に対しても出来るだけ早い時期に償還し得る様努力をおしむものではありませんが業績が軌道に乗る迄最底〔ママ〕三ケ年位の据置き三ケ年程度の分割払として頂ければこれに過ぐるものは有りません。

以上反って失礼とは存じますが窮状を斟酌を上二十万円以上の緊急且長期の融資実現に御尽力下さいます様繰り返し懇願して筆を擱く次第であります。

昭和三十三年五月二十五日

陳情先

衆議員〔ママ〕 自民党外務委員会
同 社会党外務委員会
参議員〔ママ〕 自民党外務委員会
同 社会党外務委員会
外務大臣 広島県知事
広島県自民党支部。同社会党支部
駐パラグアイ公使館

森 大 光

〔外六四名の氏名略〕

史料⑩　嘆願書提出をめぐる新聞報道〔『中国新聞』一九五八年七月二〇日〕

町ぐるみ移民団（広島県沼隈町）が嘆願書

生活に困っている

連名で政府に援助申入れ

全国初の町ぐるみで南米パラグアイのフラム地区に移住した広島県沼隈郡沼隈町出身の移民団（団長、森大光氏）から〝現地で悲惨な生活にあえいでいる。日本政府が救いの手を伸ばすよう働きかけてほしい〟との嘆願書が十九日、大原知事、藤山外相、衆・参外務委のほか自民・社会両党広島県連あてに届いた。

同町では三十一年十月、政府の第一次計画移民を皮切りに、八回にわたって同地区へ送り出し、三百八十一人（六十世帯）が一世帯あて二十万円の携行資金をもって渡航、開墾作業に従事している。

嘆願書によると三十一年十二月に到着してから原始林を切り開いたが、言語に絶する苦しさで、またたく間に営農資金を使い果たし、三十二年八月の生産期には手持資金が皆無となった。同年の六月には一戸平均一町歩の小麦をまきつけたが、悪天候で収穫できず、トウモロコシも経済不況から一粒も換金できなかった。国立銀行から借りた各戸平均三万円の伐採資金も運賃にとられなくなり、返済が危ぶまれている。ついに家財道具を売り払い渡航のさい県から贈られた柱時計も処分する有様。外出着も売りつくし残るものは仕事着だけという移民もいる。移民協会からおくられた二人の医者も経済理由で帰国し、校舎も荒れはて閉鎖せねばならなくなり、不安におののいている。日本政府としてもこの現状を直視し、一戸平均二十万円の融資をしてほしい。

と書かれており、六十人が署名している。

大原広島県知事の話　移民が苦しい状態だと聞いていたので、海外の移民協会に救済方を頼んでいた。入植後、雨や経済不況などの悪条件が重なったことが大きな原因だと思う。急いで実情を調査し、移民対策を再検討する。

山崎社会党広島県連書記長の話　知事に調査と対策を要求する。国会にも働きかけて救済の手を伸ばすよう、十九日の緊急幹事会で決めた。

平尾県外事課長の話　三月中ごろ現地調査した外務省関係者の話では、ある程度困っているとの話だった。六月下旬、現地から九百万円融資してほしいと申入れてきたので、東京の海外移住振興株式会社（政府の代理機関）を通じ、とりあ

えず百五十万円融資した。県としては八月二日課員一人を送り実情調査させるが、入植直後の営農方法を誤ったのではないかと思う。

運営に欠陥？

四カ月の米、南米農業視察を終え十九日帰国したばかりの大久保島根県農林部長はこう語った。

沼隈町移住団が現在悲惨な生活をしているというのではない。私が直接視察したのではないが、大使館の移住振興協会の話では、移住団は移住後一カ年生活を保証するという約束が、町長の病気などではかばかしく履行されないので〝どうしてくれるのだ〟と同様その方へ気をとられて、運営も円滑にゆかず、地ならしの仕事も進んでいない。この調子では今後困った事態になるかもしれないと懸念していた。

〝信じられぬ、近く調査〟

沼隈郡沼隈町役場野田助役の話　町当局へなにも連絡がないのでよく分らないが、ごく最近来た現地便りにも〝順調で元気にやっている〟と書いてあったし、それほど困っているとは信じられない。政府の海外移民政策がデスク・プラン的で積極性もないので現地から外務省など関係方面へ実情を陳情するように指示しているが移民集団の不満が強いしもっと開拓資金を出してほしい。とにかく近いうちにこちらから海外移住研究会の遠部理事と県の西村係官がパラグアイに行って実情調査を行うことになっているので、くわしい事情が分ると思う。（福山）

史料⑪　県知事のメッセージ〔前掲「フラム移住関係綴」〕

メッセージ

パラグアイ国フラム地区に御在住の沼隈移住団の皆さん、日夜御奮斗の事と思います。このたび私の代理として県から西村主事を、また沼隈町から遠部氏を派遣し、皆さんへの御慰問と激励を兼ね現地事情の調査に当らせることになりました。

そもそも皆さんがフラム地区へ集団移住されるについては、戦後いわゆる　町ぐるみ移民　の最初のケースとして、県としても国としても多大の関心と期待を寄せておりました。幸い皆さんには移住後いろいろ困難な事情があつたにも拘らず、森団長を中心にラパス産業組合を組織され、明るい建設の道を辿つておられるとの事で、私も喜んでおりました。しかるに最近になって皆さんの窮状を訴えた暗いニュースが伝えられ、関係者を憂慮させておりますことは、残念であります。皆さんがフラム地区に移住されるについて国民の関心と期待

が大きかつただけに、このニュースもまた全国民にとつて大きな反響を呼びおこし、このためにわが国のフラム移住問題について少なからず暗影を生ずる恐れもあるような現状であります。

私は事態の重要性に鑑みまして、あらゆる角度から実情の調査に努め外務省等移住関係機関にも積極的に働きかけ、一日も早く皆さんが現地での営農を確立されるよう努力を続けております。

皆さんにおかれましても、この際よくその原因を究明され、改善すべきところは改善し、新な創意と工夫を以て計画的な営農に当られると共に団長以下協力一致、相互扶助の精神を発揮して、ラパス産組の名に恥じない、文字通り平和な理想郷の建設に向って邁進されるよう祈って止みません。

一九五八年八月一日

広島県知事　大　原　博　夫

史料⑫　広島県総務部長通知「パラグアイ国フラムにおける沼隈移住団の状況について」〔同前〕

外第六一〇号

昭和三十三年九月八日

広島県総務部長
（外事課）

各地方事務所長
各市町村長　殿

パラグアイ国フラムにおける沼隈移住団の情況について（通知）

標記の移住団については、御承知のとおり先月上旬から中旬にかけて同団から提出された嘆願書がもととなり、各種の情報が報道され、少なからぬ関心と憂慮とをもたらしたものであるが、その結果、現在移住振興の上に好ましからぬ影響を与えつつあるやの状況に鑑み、この際判明している真相をとりあえずお知らせするから指導啓蒙上遺憾のないようお願いする。

なお、本件フラム移住団に対する措置としては、八月初旬県職員を現地に派遣し現状を正確に把握し必要な措置を政府に要望するとともに移住者並びにその遺家族の移民不安のないよう万全の努力をすることといたしているので御了知ありたい。

記

(一)　現在沼隈移住団が開拓第一期の当然こえなければならな

い苦しい峠にさしかかっていることは判明しているが、その程度は、食生活に事欠くということでは全然なく移住者自身の心構え、営農方法等の相違により、かなりの個人差が見られるに至っている。

(二) 開拓実績は、最高十町歩一家族平均五乃至六町歩であって他県よりの移住者の場合に比し著しく劣っている訳ではない。なお、この畑に現在、トウモロコシ、マンジヨカ(山いもと甘しょに似ている)小麦、豆類、そ菜類等を作付しており又養鶏、養豚等もはじめており、逐次自給自足態勢の確立をはかりつつある。

(三) 資金的行詰り状況にあるがその原因は次のとおりである。

(1) 沼隈移住団特に第一陣第二陣といった初期の移住者は、同町神原秀夫氏の資金的強力な援助によって沼隈町の計画集団移住者として南米移住を達成したものであり移住後の同氏による支援を過大に期待し、又個人的営農資金の携行不十分の者があり、これに反し入植地の建設計画が過大であったといううらみがあり、、又開拓に対する熱意も必ずしも満足でなかったため資金の効率的な使用がなされなかった。

右の一例として開拓営農の第一前提をなす自給自足態勢の確立が遅れ食料をはじめ生活必需物資の掛売配給を昭和三十一年渡パ以来昭和三十二年末まで続行し、営農開拓資金の消費額も相当額となった。

(2) 農産品の販路開拓が遅れ、したがって換金措置が円滑に行われなかったことも一因をなしているが現在は一応この問題は解決している。

(四) 移住第一年次においては悪天候により作付小麦が不作であったこと及び移住団の構成において指導機構が弱体であった点もあり、更に移住団内部において人の和が必ずしも十全でなかったことと又一面現地における営農指導機関の不備や道路等公共施設の建設が遅延したことも原因をなしているようである。

(五) 以上のような悪条件に加えて移住地がパラグアイ国フラム地区という全く新しいケ所であり、その上沼隈町が我が国で最初の移住団を出したため受入側における諸種の便宜供与が不十分であり、したがって沼隈町移住団としても開拓の諸工作を計画どおり順調に進めることができなかった。

(六) しかしながら同移住地には沼隈町のほか高知、福岡、北海道等から既に約二、〇〇〇名の新移住者が送出されており何れも順調に営農していることは一考を要する処である。

(七) なお、嘆願書提出の真のネライは営農資金の長期貸付制度による一移住家族あて二〇万円の確保のための工作であったということも考えられる。

(八) 以上のように現在県において判明している問題点の解決については、中央関係機関に対し夫々善処を要望し、これが具現に努力している。

(九) パラグアイ国フラム地区に対する移住は現在同地区が一応満植となり新規の移住者の募集は中止されているが、隣接ピラポ地区を新に海外移住振興会社が二三、〇〇〇町歩購入し、何れ募集開始となる予定である。県としては同地区移住希望者に対して勿論その実現をはかることにするが、基本的な方針として同地区の公共施設が整備され受入体制が確立されて後に新移住者の送出を開始することにいたしたい。

史料⑬ パラグァイ国フラム、沼隈移住団の強化育成対策について（同前）

決裁印	知事決裁 34・2・16
免除印	
施行印	34・2・16
起案課	外事課
起案年月日	昭和三十四年二月十四日
起案者職氏名印	主事 仏崎盛之助 印

保存	
保存記号	
保存種別	
簿冊名	
完結認印	

処理	
決裁区分	知事決裁
施行方法	
施行注意	
文書日付	昭和34年2月16日
文書番号	広外第二〇二号
件名簿整理印	総務課本省件名簿整理済 印
公印押捺承認	印
電略符号照合	
浄書校合	------

審査	
総務部長	
総務課長	
文書事務取扱主任	
主務係長	
課員	

決裁

知事 後閲　副知事 後閲 印

総務部長 署名

外事課長 印

文書事務取扱主任 印

主務係長 印

課員 印

伺

パラグアイ国フラム、沼隈移住団の強化育成対策について

さきに現地事情を視察調査し帰県した西村遠部両調査員の報告並びにその後に得たる情報等を綜合勘案し得たるフラム改善策を次案により外務省に伝えこれが実現を期することと致したし

広外第二〇二号

昭和三十四年二月十六日

広島県知事　大　原　博　夫

外務省移住局長　井　関　祐二郎 あて

フラム沼隈移住団に対する施策要望について

パラグアイ国フラムに在住する沼隈移住団に対する応急措置については昨夏来格別なる御配慮を煩しましたが当時御指示により本県より急きょ現地に派遣した調査員の帰国報告並びにその後現地よりの情報等を綜合勘案し現在直ちにフラムに対してなすべき事項は左記のとおりでありますのでこれが実現につき格別なる御尽力を賜はりたく特に要望致します

記

沼隈町のパラグァイ集団移住（安藤）

フラム地区特に沼隈移住団の強化育成をはかるための対策

一、緊急対策

1、目下申請中にある営農拡張資金につき速かに融資措置を講ぜられたい

沼隈移住団は入植当時の混迷期を既に脱し自給自足の域に入り更に永年生作物の植付けを計画している現況において将来の農業経営を安定不動のものとすることは極めて緊要なことであってこの際営農拡張資金の貸付は時宜に適し必要不可欠のことと信ずる

2、経営活動の動脈である道路の開設工事を直ちに実施せしめられたい

フラム―エンカルナシオン間の幹線道路に通ずる各ロッテよりの道路は日本内地において報じられている処と異なり殆ど整備されていない現況にあり、これが為移住者は開拓営農のほかにこの道路作業の方に労力と時間をさかれ非常なる重圧となっている。

3、農産品販売ルートの確立を速かにはかられたい

フラム窮状の一因は農産品の販売ルートの欠除に皈した模様である　現在はフラムにある各産業組合の懸命なる努力によりマイス等につき販売ルートを見いだしている

沼隈町のパラグァイ集団移住（安藤）

が、なお不安定の域を脱していないように考えられるこの際国若くは移住出先機関の積極的な工作により更に多元且つ確実なる方途を講ぜられたい

4、育成援助のための日本側よりの送金については爲替管理令上簡便なる措置を認められたい

沼隈移住団の窮状の因は営農資金携行の少き点にも瓬している（移住開始当初中央よりの携行指示額は二十万円、現在は三十万円に改定された）したがって沼隈移住団の携行総額は実際の所要に充足し得ず忽ち移住団の運営に蹉跌を来した次第であってこの際日本側からの援護資金については現行の枠内許容額に達するまでは簡便に送金を認めるよう格別の臨時的措置を講ぜられたい

二、施設等改善対策

1、営農指導体制の確立を期せられたい

生活環境すべてに事情を異にする移住先にあってはその安定をはかるため各般の指導を必要とすることは申すまでもない　しかるにフラムについては営農指導のための建物は完成しているにかゝはらず移住者の収容所と化し営農指導の技術員はいまに至るもなお配置されざる状況にあって甚だ遺憾に考えられる

2、公共施設の強化拡充に努められたい

現在の学校はその維持費の一部を移住者において負担し又病院の治療費も極めて高額に上り現金収入の乏しき移住者に対し与えている経済的苦痛は過大である　したがって移住者の負担を軽減し併せて整備強化の方途を速かに講ぜられると共に農産品の品質保全と輸出の便をはかるため農業倉庫の建設も速かに行はれるよう措置願いたい

3、開拓機材の貸付利用の方法を更に合理化されたい

現在の管理運営はフラムの新規開拓上実態に即していない嫌いあり移住者が気軽にしかも適期に有効に使用できるよう扱い方に改善を加えられたい

4、現地協同組合の強化育成の措置を講ぜられ販売購買の業務も円滑に行えるよう指導と援護を加えられたい

現在南米随一の称あるコチア産業組合についてもその設立当初においてはその健全育成につき国より少からぬ援護措置がなされたものである　又現地には移住者に対し割高な物品販売をなすものがある等兎角移住者の経済に好ましからぬ影響を与えているようであるのでこれらに対しては速かに抑制の措置を講ずることが必要であると

考えられる

三、フラムの実情調査の結果移住推進上考慮さるべき事項

1、外務省、海協連、海外移住振興会社の現地機関の連けい強化

2、渡航前に移住者が求める現地携行各種機材についてはそれが移住後真に使用に堪える性能を有するものとし日本内地の関係商社に対しこれが実行につき篤と御指導を願いたこと〔ママ〕

3、現在の移住は配船等との関係より入植時期の選定を軽んじこれがため移住者は必要以上の資金を入植先で費消した例があり　又移住後の指導育成に充全を期し得ない嫌も見受けられたので今後は移住先においても移住者各自の身近な問題に至るまで援助指導を加えられるよう現地機関職員の善処をお願いしたい

以上

史料⑭　入植三年後の現地便り〔広島県外事課・広島県海外協会「外事ひろしま」第六号、一九六〇年六月一五日発行〕

入植三年を迎えて

パラグァイ国フラム移住地の現情

馬屋原　辰　美

三年前にパラグァイ国フラム地区に集団移住した「沼隈移住団」については、一時、新聞などでさわがれて私どもも大へん心配しましたが、さいきん同地を視察して帰国された外務省高木移住局長や、日本海外移住振興会社の源田専務のお話しによると、実に模範的な開拓生活を送っているとのことです。この手紙は会長の馬屋原さんから沼隈町長さん宛によこした移住団の一ばん新しい情報です。

お別れして早や三年になりました。月日の立つのは早いものです。

職員御一同には日夜町発展の為御精励の事と存じます。小生もお蔭にて一家無事に送って居ります。故郷を出る時の皆さんのやれよ!!頑張れの声で今日まで来ました。今静かに過去三年を思い浮べて感慨無量です。一時は御承知の如く新聞、ラジオを賑わした時節もありましたが石の上にも三年と云う言葉通り現在では大部分が立直って居ります。寺岡町長をはじめ皆さんに大変心配をかけましたがこの汚名は是非返済すべく頑張ります。神原前町長のこの事業は是非完成し町移住史の一頁を飾らねばと頑張って居ります。何処の世界にも貧富の差はありますが移住者も三年すれば貧富の差が出来ました。現在小生は二一町を耕作致しております。マイス一六町、

大豆三町、綿一町五反、小麦三町、稲七反、永年作桐油、ゼルバを二町五反です。

小麦は毎年成績が悪く、これは出穂期に雨が多いためです。それでも約五五万円程の収入がありました。税金も肥料も不要のため純益です。この内生活費が七万円程必要ですが自給するので左程入りません。現在大豆綿、マイスの出荷中です。大豆は日本へ輸出されます。三年前には何を作っても売るのに困りましたが今は農協、農協連合会と機関が出来日本人の生産物はどんどん輸出されております。昼夜連続に一二台のトラックでエンカルナション市の農業倉庫に運んでおります。斯様な状態で移住者は将来に希望を持ち明るく元気よく働いております。小生も本年一〇町伐採し三一町の植付けを計画して居りますがこれが計画通り出来れば約百万円程の収入です。日本では働けど働けど楽な生活は出来ず現状維持すら難しかったが芭国では働けば働く程成績が上るので日々の生活が非常に楽しいです。内地で小作農や困る人は是非来ることです。但し稼働力があること、一カ年の生活費が必要なこと(約一二万円)これは一年から一年半はこれと云った収入がないためです。稼働力は四、五年は機械力を使うことが出来ませんので人力のみです。真面目に働く人は必ず成功すると思います、広島県は私等の事情が報道されてより来る人はありませんが県としても大きな損失だと考えます。他県はどしどし来て居ります。ブラジルと同様になくてはならぬ農民となるでしょう。それは一、芭国農民は日本農場で働くことを喜んでおること二、勤労精神に欠げること三、農業規模が小さいこと四、農業技術が低いこと五、共同体制が出来ないこと、以上の情況で判断されます。日本政府は芭国と移住に力を入れることでしょう。個人個人も充分研究されて過去の様な移住に対する考え方を捨て移住することです。町民の皆様へよろしくお伝え下さい。

尚私の入植以来の年収を書いてみましょう。昭和三一年六月四日に入植、三三年六千七百グアラニー(二万百円)三四年四万八千二百グアラニー(一四万四千六百円)三五年一七万一千グアラニー(五一万三千円)

本年二五町歩の土地代一四万四〇〇〇円支払いました。芭国の納年度は八月一日に始り七月三一日にて終りです。

一九六〇年五月一〇日

馬屋原 辰 美

(あんどうふくへい 研究員)